

MATSUNAGA HEADLINE NEWS



2013 Vol.21

TAKE FREE

発行元：株式会社 松永建設
 発行人：松永大祐
 〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号
 TEL・048-798-1751 (代)
 TEL・0120-980-633 (フリーダイヤル)
 FAX・048-798-0075
 URL・http://www.matsunaga.gr.jp

感動創造建設会社
 株式会社 松永建設



松永建設の土木工事が優良表彰を受賞!

表彰に期す、さらなる前進

▲左より土木事業部 松山敏彦グループリーダー、磨谷 整社員、田中吉明エキスパート、松永大祐社長

このたび松永建設では、優良工事に対して贈られる大変栄誉ある賞を受賞いたしました。適正な施工管理を行い、優秀な成績を収めた工事に授与される賞です。「感動創造建設会社」を志す弊社にとって、その姿勢と努力が認められたことを示す、栄誉ある受賞。早速、担当者の喜びの声をお届けいたします。

松永建設はこのたび、優秀な工事現場に対して贈られる栄えある賞を受賞いたしました。「顧客の皆様のために」「感動と喜びを与える工事を」を第一に考え、工事に最善を尽くす弊社にとって、その姿勢が評価されることは何にも勝る喜びです。

今回の受賞は、国土交通省関東地方整備局が表彰する「平成24年度 利根川上流河川事務所 優良工事等表彰」における、優良工事並びに優秀(工事)技術者を称えるものです。その栄誉に浴したのには、弊社土木事業部が施工した「H24川妻堤防強化工事」です。久喜市、幸手市などの北東にあたる茨城県古河市五箇町の辺りは、利根川の氾濫重点区域。氾濫を未然に防ぐ目的で、右岸・川妻堤防を強化する工事でした。

現場を担当したのは、土木事業部 工事グループ 田中エキスパート。受賞の喜びを語りました。「先方に受賞のポイントをうかがったところ、『やるべきことを適切にやるというのは、簡単なようでいて実は非常に難しい。誠意をもってそれを成し遂げたことを評価した』という言葉を受けました。相手の望むことは何か?を相手の立場に立って発想し、提案し、実行する。常にそれを念頭において施工にあたったことで、信用を得られたのではないかと思います」

施工現場は広大な堤防地。区画ごとに20~30社が施工を請け負い、それぞれが十数台のダンプカーを差配して盛土を行う大規模な工事でした。一日数百台のダンプが行き交う様子は、さながら「ダンプ銀座」状態。事故のないよう、安全に最

大かつ細心の注意を払う、しかし配車や工事はスムーズに。またあるときは、難解と思われる図面や計算にあらかじめ図表や解説を加え、わかりやすく明示するなど、常に広い視野と相手を思いやる視点で進めたことが功を奏しました。

土木事業部 工事グループ 松山グループリーダーによれば、「田中は、真面目にコツコツ物事に取り組むうえに、『仕事をやる以上はいい評価を得たい』とポジティブに向かっていくタイプ。彼の前向きな姿勢と努力が実を結んだということでは



ないでしょう」。「お客様に感動を提供したい—その想いで日々から「感動創造建設会社」を誇り、目標に掲げていますが、田中君、そして脇を固めた若手ホープの磨谷君とともに、それに恥じない活躍をしてください」と、松永大祐社長も笑顔で労います。引き続き2面で、工事の様子と二人の努力の跡をお伝えしましょう。

国土交通省 関東地方整備局

「平成24年度 利根川上流河川事務所 優良工事等表彰」

「為すべきことを確実・堅実に為す」
 気構えこそが勝ち取った栄誉



▲完成した川妻堤防の強化工事。土が露出している部分が新たに盛土をし、堤防を太らせたところ

今回、国土交通省・関東地方整備局利根川上流河川事務所から表彰された「H24川妻堤防強化工事」は、簡単に言えば堤防を「太らせ」、氾濫に備えて強化する工事です。大量の盛土をし、堤防のすそを住宅地側に拡張させる——つまり、堤防そのものの面積を増やすことで強度を上げるわけです。

前ページで受賞のポイントについて触れましたが、前述以外にも、堤防強化を確実にを行うために2つの最新技術を積極的に工事に導入したことも、受賞の大きなきっかけとなりました。それは「マシンガイダンス技術」と「GPSを用いた締め固め管理」です。簡単に説明しましょう。

■表彰を後押しした2つの最新技術への取り組み

堤防を造るためには盛土をし、その表層を所定の標高に成形しなければなりません。「敷き均し」といい、土砂を一定の形・高さなどに均します。その際に使われるのが「マシンガイダンス技術」。最新の計測技術を用い、ブルドーザーなどの施工機械の位置情報や現場の施工状況を正確に計測。3Dの設計データと



▲土木事業部 工事1グループ 田中エキスパート「人生一度きり、男として生まれたからには仕事には全力で臨みます」

照らし合わせて、その差異をモニターに表示する技術です。

「盛土が多すぎる、あと〇センチ均す必要がある……」などがモニター画面に表示され、ブルドーザーのオペレーターはそれを見て必要な操作を行います」（田中エキスパート）



▲土木事業部 工事1グループ 磨谷社員「いつか、田中表彰、を受けられるように頑張ります」

敷き均しが終わると、続いて行われる重要な作業が「締め固め」。土を盛っただけでは当然のことながら緩い土壌を、ブルドーザーの自重を利用して踏み固め、密度を高めるものです。その際、まず事前に試験盛土でテストを行い、「ブルドーザーを何回往復させれば所定の締め固め密度に達する」というデータを得ておきます。次に、実際にブルドーザーで締め固めを行うときに使われるのが、「TS・GNSSを用いた盛土の締め固め管理」。衛星測位システム(GNSS)を使った管理技術です。人工衛星の監視によりブルドーザーの軌跡が追跡でき、堤防のどの箇所を何往復したかがモニターに色分け表示されるというもの。オペレーターはそれを見ながら、規定回数に達していない箇所のないよう作業をすれはいいというわけです。



▲「GPSを用いた締め固め管理」の様子。ブルドーザーの踏み固め跡が回数によってモニターに色分け表示され、それを見ながら踏み足りない箇所がないよう作業を行う

■工事の均質化・標準化に欠かせぬ技術を積極採用



▲土木事業部 工事1グループ 松山グループリーダー「協力会社と田中が唯一無二の信頼関係を築いていたことも、受賞の基盤にありました」

「最新技術の導入が受賞のポイントになったとはいえ、単に「偉いぞ、よく頑張った」と褒められたわけではありません。両方とも、まだ採用する会社はあまり多くないものの、れっきとした国土交通省推奨の技術です」とは田中エキスパート。では、どういう点が認められたのでしょうか？

「当然のことながら、商品と同じで工事に品質が求められます。ところが、近年は熟練の技能者(オペレーター)がどんどん減少している状況。しかも今後、社会の超高齢化に伴ってますます不足することが避けられません。その点を踏まえ、熟練の技能者でなくても均質な作業が行えるよう開発されたのが、我々の用いた2つの技術なのです。これから先必須となる技術を積極的に採用したこと、その点が評価を後押ししてくれたのだと思います」



▲カラーコーンにひな人形の飾りや飾り、クリスマス電飾を飾したりし、現場では季節ごとに近隣住民を和ませる創意工夫も

■「表彰は名誉、なれど……」若手を鍛えた施工現場

受賞現場では、弊社の将来を担うホープの活躍も光りました。施工当時、入社2年目だった磨谷社員です。「もともと住宅が建っていたところ今回は堤防を拡張しました。そのため盛土をする前に、家屋の基礎や埋設された古い水道管・ガス管などを取り除く作業を任せられました。昔の図面を見ながら、この辺に埋まっているという箇所を掘り起こしては取り除いていきましたが、推測が外れるところも多く、苦労しました」と語る磨谷社員。しかし、そうした苦労を上回る難関が今回の作業にはそびえていたといいます。「田中エキスパートの厳しいチェックです。先方の河川事務所よりも田中エキスパートのOKをもらうほうが難しかったほどです(笑)。手がけた現場が表彰を受けることは大変名誉なことでしたが、田中エキスパートの求めるレベルはまだ自分としては満たせていません。免許皆伝できるよう精進していきたいと思えます」と、新たな抱負を胸に抱く磨谷社員です。

■「仕事の報酬は仕事」受賞あってこそその勝利のサイクル

「昔から土木の世界では、『仕事の報酬は仕事』といわれてきました」と田中エキスパート。いい仕事が次の仕事を呼び込むという意味です。しかし今は、そうした切磋琢磨の意味合いと同時に、別のニュアンスも含んで土木業界では使われるとします。

「今は入札価格だけで工事が決まらない時代。企業の技術力や統括力などを加味した総合評価方式が取られることが多いのです。いい仕事をし、受賞をすることが社の評価を高め、そうして初めて次が受注できる——是が非でもそのサイクルに乗らなければ、乗ってこそ会社の役に立てるのだと思います」（田中エキスパート）

18年この仕事に従事し、経験と知恵を蓄えながら徐々に難易度の高い現場を任せられてきたという田中エキスパート。それらをひとつ終えるたびに、階段を上るように自らのステップアップを実感してきたといいます。「じっくりと自分という人間を見守り、成長を促してくれた会社に感謝し、今では一つ一つの仕事を恩返しだと思ってやっています。そしてもっと大きく豊かな会社にし、次世代へつなげることが私の使命だと思っています」

MATSUNAGA
グループ会社
のご紹介

松永都市開発株式会社

不動産の管理や資産運用の気軽なご相談窓口!



▲グループカラーの青い看板が目印。サロンの様な店内です。

創業50周年の節目にあたり、改めて弊社のグループ企業をご紹介します。

岩槻駅すぐ埼玉りそな銀行岩槻支店の向かい側にある松永都市開発は、不動産の売買や賃借などの仲介を主に扱う総合不動産業を営んでいます。業務内容は大きく分けて、①土地、建物などの不動産物件の売買・賃借のお手伝い、②マンション、戸建住宅、店舗、事務所、駐車場など賃貸物件の管理、

③資産活用、節税対策、権利調整のご提案・ご相談、これが松永都市開発の三本柱です。

世相を反映してか、近年増えているのが③にあたる不動産活用のご相談や、税金対策などのご相談。松永都市開発では、地主の方々の大変な土地をお預かりして上手に資産運用できる道をご案内させていただきます。グループ会社の強みを活かし、松永建設とも連携、高利回りの商品のご提案をすることが

可能です。

松永都市開発では入口サロンにて、いつでも美味しいお茶をご用意し、皆様のご来店をお待ちいたしております。

- ・アパートが古くて建替したい。
 - ・相続税がいくらになるか心配。
 - ・昔からの借地権を解消させ、土地を整理したい。
 - ・土地を贈与したいがどうすれば…
- など、よろず人生相談と思ってお気軽にご相談いただけます。経験豊かなスタッフが迅速・親身に回答するほか、必要に応じて顧問弁護士・顧問税理士にも無料相談が可能です。また、定期的に税金や資産に関する勉強会や楽しい行業イベントなどを催し、人生設計に役立てていただいております。ぜひお気軽にご来店を!



▲橋本総務執行役員をはじめ、営業スタッフは全員宅地建物取引主任者有資格者、確かな「提案とフォローワーク」の良さが自慢です。



▲不動産にまつわるご相談なら、どんなことでもお気軽に。当サロンのほか、プライバシーを大切にしたい別室もご用意しています。

至大宮	岩槻駅	至春日部
松永都市開発		
●埼玉りそな銀行		
旧16号		
16号バイパス		

松永都市開発株式会社へのお問い合わせは ▶▶▶ TEL: 0120-120-879 まで

【住所】さいたま市岩槻区本町1-5-4 【TEL】 048-757-0312
【URL】 <http://www.matsunaga.gr.jp/mtk/>

MATSUNAGA
グループ会社
のご紹介

安心リビング・サポート株式会社 安心リビング・センター「うらら岩槻」

老後の安心と生きる張り合いを、おもてなしの心で包む



▲明るい南欧風の外観が利用者の皆様をお出迎え。ご家族のご都合を最優先した、早朝や深夜の送迎(ショートのみ)も特長です。

うらら岩槻は、デイサービス(通所介護)、ショートステイ(短期入所生活介護)、そしてケアマネジメント(居宅介護支援事業)を行う介護施設です。岩槻の土地と人々の厚情に支えられ、育まれてきた弊社が、地域社会に貢献すべく2004年にスタートさせました。今ではすっかり地元密着型の施設として、高齢者の方々の交流の場、生き甲斐を探す

場として楽しんでいただいています。

うらら岩槻の目標は「楽しさとおもてなし」

▲館内には次のご当地メニューの告知。鹿児島産は鶏飯、豚の角煮にさつま揚げなど盛り沢山。お楽しみのスイーツは毎回センター長推薦の郷土菓子を取り寄せています。

しの心」。毎日のレクリエーションや創作活動、季節の行事などの充実ぶりは、ほかのどんな施設にも負けません。とくに利用者の皆様から好評を博しているのは、ご当地メニュー。全国各地の美味しいものを月に2回、お昼にお出しすると「そこの旅行に行った気分になれるよ、ありがとう」と嬉しい声をいただきます。あくまで「ご当地風」ではありませんが、アンテナショップに職員自らが出向き、できるだけ本物のご当地食材を仕入れて調理する、デザートだけは本場物をご用意するなど、最大限のおもてなし感を込めています。

自慢の広い浴場を活かした変わり風呂も大人気。日本酒風呂、牛乳風呂、



▲夏の岩槻まつりでは職員そろって渾身の黒田武士を披露。このパワーが温かい介護を生み出します!



▲成澤勇人センター長(左)と受付窓口も担当事務主任の小林恵美子さん。「うらら岩槻に通うようになって目を見張るような回復をされた方、かえってハツラツとされた方も多くて、本当に頑張りが甲斐があります」

アップルティー風呂など、効能や香りの楽しさなどを考えながら実施しています。ちなみに11月は「米ぬか・秋の栗風呂」。もみじやピワの葉などを浮かべた白濁湯で、秋の露天風呂を思わせる季節感を満喫していただきました。

12月23日には、皆様かしの童謡からクラシックまでを心豊かに楽しむクリスマスコンサート、同28日には年内最後のご当地メニューとして2巡目の北海道編も企画。どうぞ、うらら岩槻で充実した時間をお過ごしください。

安心リビング・センター「うらら岩槻」へのお問い合わせは ▶▶▶ TEL: 048-798-8341 まで

【住所】さいたま市岩槻区新塚1205-1 【TEL】 048-798-8341
【URL】 http://www.matsunaga.gr.jp/urara_iwatsuki/

MATSUNAGA
グループ会社
のご紹介

株式会社丸忠産業

「安全な現場環境づくり」で得た信頼の仮設工事



▲敷地には仮設工事のための資材一式がズラリ。種類ごとに山のように積み上げられ出荷を待っています

株式会社丸忠産業は、主に仮設工事で用いられる仮設材のリース及び仮設工事を請け負っています。仮設工事足場組工事といえば、高(とび)職人の独壇場。高所を草履に動き回ることから、「建築現場の華」ともいわれています。また、どんな建築現場であれ、一番に始まるのが仮設工事です。足場を組まないことにはどんな工事も行えません。そのためでしょう、大山英晴常務執行役員は非常に誇り高い職場であると語り

ます。「どんな施工現場に対しても最適な仮設工事を提案すること。安全で作業のしやすい現場環境づくりをすることをモットーとしています」

現場の状況や動線、建設・修繕などを行う建物の規模と形状、そして安全対策などを総合的に考えようとして、どんな足場が最適かを判断。次いで資材量を計算し、絶縁足場、枠組足場、吊り足場などを実際に組んでいく——ひたひた何気なく目にする工事現場の足

▶NTT東日本様の工事を請け負った際の様子より。安全と作業効率を考慮して緻密に組まれた足場は一種の芸術。えも言われぬ美しさがあります



場とは、こうしたプロの目・頭脳と技の結集なのです。

中でもNTT東日本様の建物に関する工事においては、丸忠産業は絶大な信頼をいただいています。通信事業を担う施設である関係上、NTT様の建物には技術的・品質的に厳格な規格が設けられており、その基準とクオリティを満たす「施工力」こそが、丸忠産業の大き

な資産。今では関東一円——遠くは伊豆七島まで——にわたるNTT様の工事を請け負っています。

最後になりますが、丸忠産業ではほかに、木材や鉄筋などの建設資材の販売と、環境保全・リサイクルの観点から有用な「再生骨材」の販売(下項参照)なども行っています。



▲仮設工事と資材のプロ集団。「建設工事は多種多様な工事の複合性で成り立っていますが、中でもそのスタート地点にあたる部分で弊社の役割、難高度の高い足場も大変得意としています」と語る、中央の大山英晴常務執行役員

株式会社丸忠産業へのお問い合わせは ▶▶▶ TEL: 048-798-2311 まで

【住所】さいたま市岩槻区新塚1000番地 【TEL】 048-798-2311
【URL】 <http://www.matsunaga.gr.jp/sangyou/>

MATSUNAGA
グループ会社
のご紹介

再生骨材工場

解体工事に出た廃材をリサイクル、環境負荷の低減へ——



▲コンクリートやアスファルトの廃材を真上を適切な大きさで砕いて再生材に(写真左)

松永建設グループでは、グループ内に再生骨材工場を所有し、建物を解体したあとに出るコンクリートなど、環境に対して大きな負荷となる建設廃材のリサイクル処理をする事業を行っています。その「コンクリート廃材再生プラント」が、再生骨材工場です。当工場では、まず建物の解体後に

出る建設廃材を首都圏各所から受け入れます。

その廃材は高速回転する大きな鋼の刃で粉砕され、ふるい状のもので選別、再生砕石と再生砂としてリサイクル(再製品化)され、新たな価値を持つ資源として再利用されます。

それは、日頃皆さまが使う道路や駐

車場といったアスファルト敷工事、あるいは建物の基礎工事などに使われています。

自然界の砂利や砂の利用を抑え、可能な限りを再生資源でまかなうという、非常にエコな観点に立った施設だといえるでしょう。

建設廃材はいわゆる産業廃棄物にあたります。

そのため、有用な工場ではありますが、近隣の環境保全に細心の配慮が欠かせません。

敷地全体を囲い、さらに破砕機も二重に囲うといった、騒音対策や粉塵飛散対策に重点を置いています。

また、近年ではアスベストや放射能



▲再生骨材工場の外観。騒音と粉塵の対策用に、広い外周をぐるりと壁が取り囲む

などの検査基準を厳しくし、危険性のないものだけをリサイクル材として出荷しています。

2020年に開催が決定した東京オリンピック。

その未来へ向け、都内ではおそらく工事量の大幅増加が見込まれます。

それは、ひいてはコンクリート廃材が大量に生まれる事を意味する、と関根幸男工場長は語ります。

「環境負荷の低減に寄与していることを誇りに、その責を果たしていくことが当工場の意義。これからもより高品質な製品をお客様に提供できるように、フル稼働で邁進します」



◀「国道16号や東北道と近く、立地がいいのは幸運」と語る関根幸男工場長。「おかげで南は都内、北は東北の加須、東は千葉と、広範囲に取引ができています。廃材受入においても再生材販売においても、輸送がベースです。」

再生骨材工場へのお問い合わせは ▶▶▶ TEL: 048-758-5500 まで

【住所】さいたま市岩槻区大字新橋字真輪下3573-2 【TEL】 048-758-5500

お客様の
ご紹介

建物の「裏側」を見せる施工で「ものづくり」の原点へ 日本工業大学様 (生活環境デザイン学科・研究棟)



▲雑誌「新建築」7月号に掲載された新しい研究棟

「本学は実工学を標榜し、「ものづくり」の喜びを起点に工学を学ぶことを建学の精神としてきました。今回新築した校舎も「建物自体を教材にする」ことを目的としました」と語る、日本工業大学の波多野純学長。2009年に新設された生活環境デザイン学科の研究室と実習室から成る実験研究棟(W2棟)を弊社で施工させていただきました。

設計を手かけたのは、一般建築士で同大学で教鞭をとる吉村英孝助教です。「建物自体を教材にする」、そのココロは?と尋ねると……「建物の構造や、どのように建てられているかが目で見て確

かめられるよう、部材や設備を露わにした建物です。とはいえ、剥き出しで置けばいいものでもありません。「美しく露出する」ことを大切にしました。

これは非常に難しい試みだったといえます。たとえば天井裏。通常なら無造作に行き交っている配管や配線も、隠さず「見せる」ためには系統立てて整理する 相応の工夫が必要です。さまざまな接合部なども同様。見え

ない日はない 工事でした(笑)。ものづくり欲を大いに刺激される 工事に携わったことは大変な幸運です」

▲同大学 吉村英孝助教



▲日本工業大学 波多野 純学長

なければ「目的を果たす」だけで許されませんが、見せるならば美しさが求められるという具合です。つまり、建築の原点に立ち返ることが欠かせないのです。施工を担当した弊社の中山雅央現場所長もそのことを痛感。「20年以上建築に携わってきましたが、目から鱗が落ちない日はない 工事でした(笑)。ものづくり欲を大いに刺激される 工事に携わったことは大変な幸運です」

▲全網で覆っただけの見せる配電盤が新新 取材後、見学



▲段差をあえて小さくした階段に座ること、講義や講評会などにも有効活用される吹き抜けのホール。天井裏をはじめとする各部が露わになっていることがわかる。

した「見せる建築」の現物は、新鮮な驚きと感動にあふれていました。「指示を飛ばしたり、図面を引いたりするだけでなく、実際に現場で動けるプロジェクトリーダーたれと学生に徹を飛ばしています」と語る波多野学長ですが、この校舎から巣立っていく若者ならば、きっと大いに期待できるのではないのでしょうか。

▲営業本部 法人営業部 宮崎1グループ 中山 雅央グループリーダー

日本工業大学様へのお問い合わせは ▶▶▶ TEL: 0480-34-4111 (代表)まで

【住所】〒345-8501 埼玉県熊谷市御代町学園台4-1
【URL】http://www.nit.ac.jp/

お客様の
ご紹介

障がいには負けない生き生きとした時間を!地域待望の施設が誕生 多機能型事業所「わかくさ」様



▲雨の日も利用者さんがなるべく濡れないよう、アプローチが工夫されている。外観の色でも温かみに配慮

このたび、障がい児童のデイサービス及び障がい者の生活介護を行う多機能型事業所「わかくさ」が岩槻に誕生しました。埼玉県東部地区にはこうした施設が



▲こちらは障がい児童のための放課後等デイサービスのスペース。可動扉を開け放つと上写真のホールと一体空間になり、クリスマスなどの大人気イベントにも活躍

少なく、障がい者やその家族の方々から大きな期待を寄せられてのスタート。弊社も、地域が抱えるこの喫緊の課題に少しでも貢献すべく、建築面でお手伝いをさせていただきました。

わかくさでは、午前9時半から午後2時までは就労の機会を得にくい重度の障がい者の方々を、また夕方には下校後の障がい児童を受け入れ、絵画や工作、おりがみといった文化活動、生活能力向上のための機能訓練などを行っています。隣の借地では畑を作り、自然と触れ合いながらの農作業も活動の一環としています。



▲株式会社 介護サービスひまわり 代表取締役社長 山本 明興氏

「障がい者のおみなさんが「自分たちにもできることがある」と充実した日々を送ってもらうこと、これが私たちの一番の目標です」と、わかくさを運営する株式会社介護サービスひまわりの山本明興社長。利用者さんを見守る眼差しに愛があふれます。施設の壁紙にブルーやピンクなどの柔らかくて遊び心のある色彩を多用したのは山本社長のアイデア。子ども



▲生活訓練の場として簡単な調理もできるように工夫



▲生活介護を行うホール。車イス利用と安全に配慮、障がい者支援施設には広い空間が欠かせない

部屋とか見紛うような温かみにあふれています。「施設らしい施設」にせず、利用者さんにとっての「第二のわが家」でありたかったんです。屋根の形状も計画当初の平らな陸屋根から「おうち」に近い寄せ棟に変更してもらいました」

障がいには負けない生き生きとした時間を……。そんなわかくさの理念が今後一層の輝きを増すことをお祈りしております。



▲建築部 工事4グループ 平賀 雄二サブリーダー

「手すりやカウンターの高さなどを、利用者さんの利便性を考えて工夫しました」

多機能型事業所「わかくさ」様へのお問い合わせは ▶▶▶ TEL: 048-798-4534まで

【住所】〒339-0031 さいたま市岩槻区新塚85番地1
【運営事業者】株式会社 介護サービスひまわり

さいたま市商工見本市、開催

「コラボさいたま2013」に出展しました

11月8日～10日の3日間、さいたま市、さいたま商工会議所などが主催する、県下最大級の商工見本市「コラボさいたま2013」がさいたまスーパーアリーナで開催され、3日間で34,000

人が来場しました。さいたま市を拠点とする多数の事業者が自社製品などを出展し、松永建設も出展しました。当ブースでは、土地活用に最適な賃貸マンション経営「ABオービット」や、太陽光発電

システムをご紹介。特に好評だったのが、エアロバイク発電機を漕いで、100Wの発電量を実感するコーナーでした。大人から子供までたくさんの方に体験して頂きました。ご来場くださった皆様、誠にありがとうございました。



▲ご来訪頂いたさいたま市の清水勇人市長とブース前にて



▲さいたま市の清水勇人市長（中央）とともに、弊社の松永功代表取締役社長（左）が、さいたま商工会議所会頭としてオープニングのテープカットを行いました。



▲会場となったさいたまスーパーアリーナには市内を拠点とする事業者が多数出展していました

この冬、街を鮮やかに彩る高級感溢れた賃貸マンションが完成間近
北浦和駅徒歩2分の場所に賃貸マンション「ABオービット」が間もなく竣工!

埼玉県さいたま市浦和区に建設中の鉄筋コンクリート賃貸マンション「ABオービット」が、まもなく竣工いたします。

ABオービットは、鉄筋コンクリート(RC)造ながら坪単価40万円～の建設費を可能にし、高収益経営をお約束する賃貸マンション。土地という資産の有効活用法として、あるいは節税・相続税対策として、地主の皆様よりご好評をいただいております。

今回竣工間近のマンションは、さいたま市浦和区「ケーツーエイチ」です。

北浦和駅から徒歩2分の近さで1K24戸と、一人暮らしの通勤・通学にも便利なマンション。家賃は6.6万円～7.3万円(管理費別途6千円)で間取りは洋室8帖とK2帖。平成25年12月現在、入居者を募集中。更に1階はテナントを募集しております。



賃貸住居・テナントに関するお問い合わせは
松永都市開発株式会社
TEL:0120-120-879まで



ABオービット「ケーツーエイチ」
さいたま市浦和区常盤(北浦和駅徒歩2分)
1K・24戸



ただいま着工中の
物件です!

岩槻区豊谷町	3階建/9戸/平成26年1月完成
豊島区北大塚	10階建/14戸/平成26年3月完成
杉並区久我山	4階建/14戸/平成26年3月完成
上尾市今泉	3階建/7戸/平成26年3月完成
岩槻区加倉	2階建/10戸/平成26年3月完成
鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷	9階建/30戸/平成26年4月完成
戸田市上戸田	3階建/18戸/平成26年4月完成



ABオービット朝霞市マンション
朝霞市本町(朝霞駅徒歩5分)
1K・2LDK・36戸



建設現場の今——現場作業員の不足に思うこと

「ものづくり大国」日本よ、どこへ行く?

日本経済が上げ潮に向かいつつあるように言われていますが、さて皆様はどのように実感しているのでしょうか? 残念ながら私個人としては、好景気の手応えはあまり感じられずいます。メディアで伝えられる「街の声」と同様、皆様の多くも「景気が上向していることを実感できずにいる」のが正直なところではないでしょうか。

その景気を左右しかねないものといえば、消費税の増税。弊社でも増税前の駆け込み需要の恩恵は、多少なりありました。とはいえ報道にもありましたが、折からの現場作業員不足も重なり、建築工事の最前線は喜んでばかりもいられません。需要がありながら、供給は深刻な人手不足に喘いでいる状態なのです。

なぜこんな状況になってしまったのでしょうか? パブル崩壊を端緒とする「失われた20年」の間に、失職したり、転

職を余儀なくされた職人が大勢いました。その間をなんとか生き延びた職人たちは、もはや高齢。若手を育てようにも現代は、現場職そのものが敬遠されている状況です。

思うに、今の日本はあまりにもホワイトカラー偏重になってはいないでしょうか。敷かれたレールのままに皆が大学へと進み、青広にネクタイで仕事をすることが当たり前だと考えている。教育の仕組みのせいなのか、何なのか、私の中でも明確な答えはありません。が、少なくとも幼いうちは「手先が器用」「絵を描くのが好き」「工作が好き」だったはずの子どもが、そうした個性を伸ばされることのないまま、成長と共に「学歴」という波に埋没してしまっている気がしてならないのです……。

世の中がソフト偏重に傾いている今の風潮が続けば、「ものづくり大国」として繁栄を享受してきた日本は、遠から



ず根底から揺らぐでしょう。ものづくりを牽引する感性、ものづくりを尊重する気風は、幼い頃の環境と教育で育まれるものです。一心不乱にするのはゲームだけ、という今の子どもたちの姿を見るにつけ、何とかならないものかと思わずにはいられません。

ドイツの例にちなったマイスター制度を導入しようという企業の話もちらほら聞きますが、私は良案だと思います。

▲「ものづくり大国」である熟練の職人の技が失われていくのは、日本にとって大きな損失です。

ひとつの分野に精通したプロフェッショナルを厚遇し、同時に、その匠の技を継承できるような環境を整える。字ばうという者のモチベーションを維持・向上させる、これ以上ない仕組みではありませんか。どうか、こうした取り組みが「ものづくり日本」を再興するきっかけとなるよう願っています。